



IUCN絶滅危惧種 レッドリスト



THE IUCN RED LIST
OF THREATENED SPECIES™

IUCN
Rue Mauverney 28
CH-1196 Gland
Switzerland
Tel: + 41 22 999 0000
Fax: + 41 22 999 0015
www.iucn.org/redlist
www.iucnredlist.org
www.iucnredlist.org/donate

Japanese translation © IUCN, 2017



Phelsuma antanosy 深刻な危機
Photography © J. C. Pandrianantandro



レッカーパンダ(Ailurus fulgens) 危急
Photography © brett211 CC BY-SA 2.0

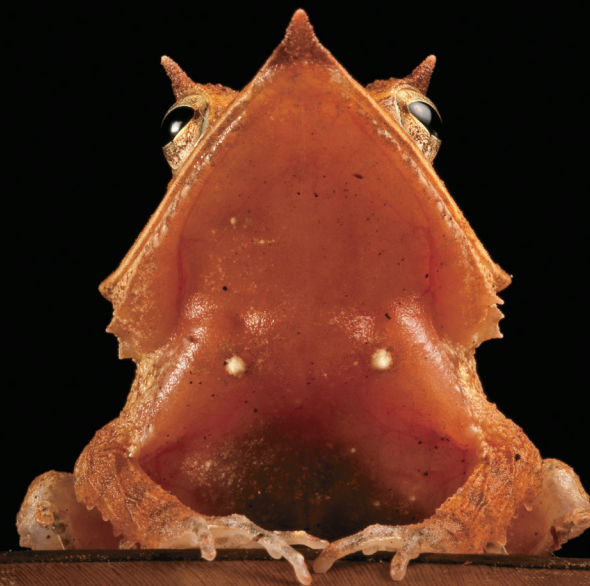


IUCN絶滅危惧種レッドリストは、動物、植物、菌類の種の保全状況と人間の生計との結びつきに関する世界で最も包括的な情報源です。

世界の生物種の脅威、個体数の状況、傾向などの情報と分析結果を提供し、生物多様性保全の活動促進を目標としています。

“IUCNレッドリストは、自然界が徐々に傷ついていることを思い出させる警鐘です。効果的な保全は、地域社会の生計を保証するとともに、生物種を絶滅から救うというかけがえのない結果を生み出します。私たちが毎日支え、感動を与えてくれるこの素晴らしい生命の多様性を守っていくには、国際社会が一日も早く保全への取り組みを強化しなくてはなりません。”

インガー・アンダーセン事務局長
(国際自然保護連合)



ハナトガリガエル(*Ceratobatrachus guentheri*) 低懸念
Photography © Robin Moore

IUCNレッドリストとは？



IUCNレッドリストとは？

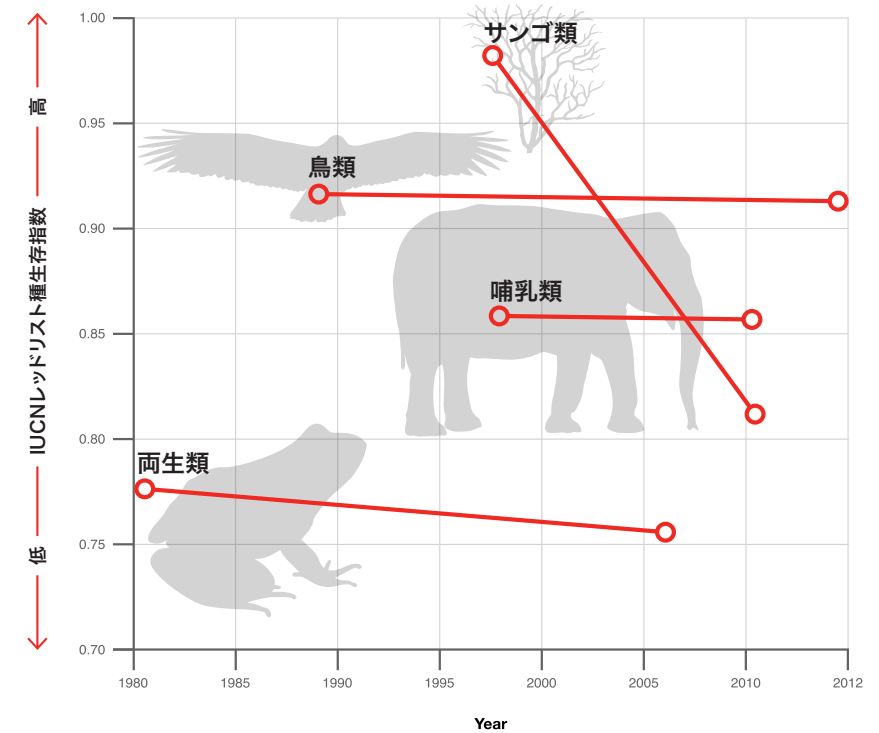
IUCNレッドリストには、生物種への脅威や生態的要件および生息環境、そして絶滅を減少、防止するための保全活動に関する詳しい情報が含まれています。

これは過去、現在、そして予測される脅威に基づき、種の絶滅リスクを評価するための客観的な制度に基づいています。

種の評価は、厳格なIUCNレッドリストカテゴリと基準を用いた標準化されたプロセスに従って実施されており、高標準の科学的文書、情報管理、専門家レビュー、妥当性が確保されています。

個体群の傾向・サイズ・構造および分布範囲に関連した基準に基づいた8つのIUCNレッドリストカテゴリがあります。深刻な危機、危機、危急に分類される種をまとめて「絶滅危惧種」としています。

IUCNレッドリストとは？



IUCNレッドリスト指数

IUCNレッドリスト指数(RLI)とは、種の絶滅リスク全体の傾向を明らかにすることで、政府が生物多様性の喪失を減らす目標の進捗状況を追跡するための指標を提供しています。

この指数は、環境持続可能性に関する2015年ミレニアム開発目標7の指標の一つとして国連により採択されました。

さらに、愛知ターゲットの目標12の達成率を評価するのにも役立ちます。

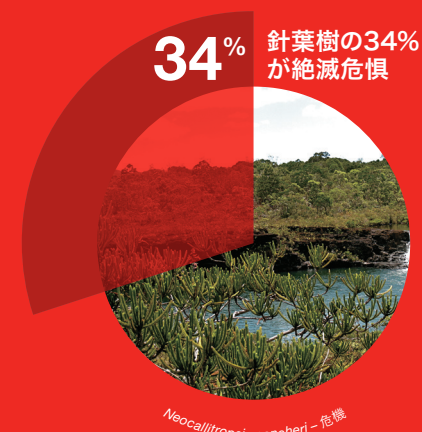
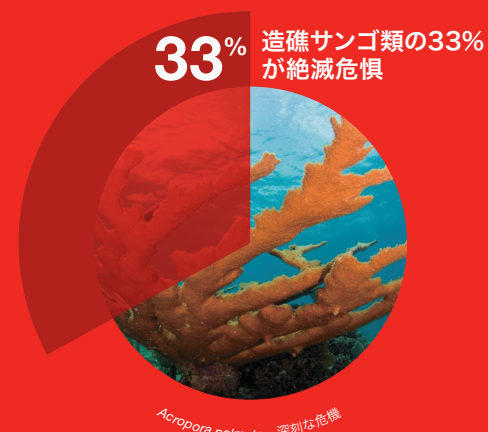
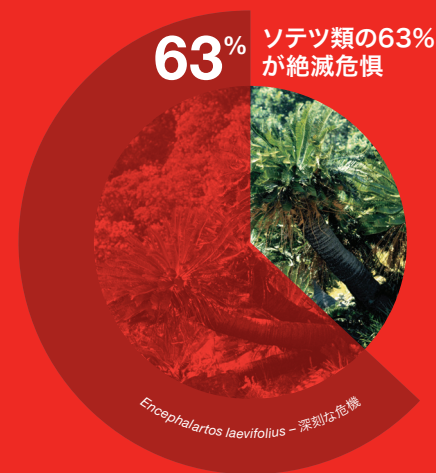
RLIは、ある分類群の中で評価された種すべてに関して、IUCNレッドリストカテゴリが時間とともにどのように変わったかに基づいて計算されます。指数の値が減少した場合、将来の絶滅速度が増加したことを意味し、これは生物多様性喪失の速度が増加したことを表します。逆に上昇した場合は、将来の種の絶滅速度が減少する、すなわち生物多様性喪失の速度が減少したことになります。

IUCNレッドリストでは、これまでに85,600種以上が評価されてきました。この図は両生類、鳥類、哺乳類、エンゼルフィッシュ類、チョウチョウウオ類、ワニ類、淡水ガニとザリガニの仲間、ハタ類、ソテツ類と針葉樹を含む裸子植物、ロブスター類、マングローブ、ウミガメ類、ブダイ類、造礁サンゴ、海草、ウミヘビ類、サメ・エイ類、マグロ・カジキ類、ベラ類の既知の種のほとんどが含まれています。

これにより、いくつかのグループが絶滅の危機に瀕しているということが明らかになっています。

“種が提供するサービスや経済価値は、私たちが幸せに暮らすには不可欠であり、かけがえないものです。私たちが自然の限度内で暮らし、天然資源を持続的に管理しない限り、ますます多くの種が絶滅に向かうでしょう。もし私たちが自分の責任を無視すれば、私たち自身の生存も危うくなるでしょう。”

ジェーン・スマート博士
「IUCNグローバルスピーシーズプログラム」ディレクター





IUCNレッドリストパートナーシップ

保全のため、共に働く

IUCNレッドリストは、IUCNグローバルスピーシーズプログラム、種の保存委員会 (SSC)、そしてIUCNレッドリストパートナーシップによって作成され管理されています。

IUCNレッドリストパートナーとは：アリゾナ州立大学；バードライフインターナショナル；植物園自然保護国際機構；コンサベーションインターナショナル；NatureServe；英国王立キューガーデン；ローマ・ラ・サピエンツァ大学；テキサス A&M 大学；ロンドン動物学会

“IUCNレッドリストは、この世界の脅威を防ぐために私たちがどこに関心を持ち、どこで早急に行動すべきかを教えてください。これは自然保護活動家にとって素晴らしい指針となるのです。”

ディビット・アッテンボロー氏

レッドリストはどのように使われているか？

科学的な研究のガイド

科学雑誌の査読論文は頻繁にIUCNレッドリストを引用しています。毎年、保全に関する多数の新しい論文がIUCNレッドリストの価値を検討し、保全計画に及ぼす重要な貢献に言及しています。ウェブサイトからのIUCNレッドリストデータのダウンロード状況から、世界中の研究組織が日常的にIUCNレッドリストデータを研究目的に使用していることがわかります。

ポリシーと規約

多国間協定が決定をおこなうにあたり、参照情報としてIUCNレッドリストが使われています。絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(CITES)や、移動性の種の保護に関する条約(CMS)など、いくつかの協定の附属書を修正する参考として頻繁に使用されています。

淡水産種のIUCNレッドリスト評価は、ラムサール条約が淡水の生物多様性のために重要な湿地を選ぶ作業にも貢献しています。

IUCNレッドリストは、意思決定を改善するため生物多様性と生態系サービスに関する科学と政策の接点をより強固にすべく、生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)のはたらきにも貢献します。

IUCNレッドリストのデータは、2010年の生物多様性条約国会議(CBD)で政府が採択した愛知生物多様性目標、特に目標12「2020年までに、わかっている絶滅危惧種の絶滅を防ぎ、また特に減少している生物種に対する保全状況の改善が達成、維持される」ことへの進捗状況の報告と評価に活用されています。

CBDにおける戦略目標	2020年へ向けての愛知目標	IUCN Red List
A:各政府と各社会において生物多様性を主流とすることにより、生物多様性の損失の根本原因に対処する。	1:人々が生物多様性の価値と必要性を認識する	✓
	2:生物多様性の有用性が、国の計画に組み込まれる	
	3:奨励制度を改善する	✓
	4:持続可能な生産と消費を促進する	✓
B:生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する。	5:生息地の損失を減少させる	✓
	6:漁業を持続的に管理する	✓
	7:農業、養殖業、林業を持続的に管理する	
	8:汚染を減少させる	✓
	9:侵略的外来種を制御する	✓
	10:気候変動や海洋の酸性化に脆弱な生態系への人為的圧力を最小限にとどめる	✓
C:生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることにより、生物多様性の状況を改善する。	11:保護地域を増加させる	
	12:絶滅を防ぐ	✓
	13:遺伝的多様性を維持する	✓
D:生物多様性及び生態系サービスから得られる全ての人のための恩恵を強化する。	14:生態系を回復、保全する	✓
	15:生態系の回復力を高める	✓
	16:遺伝子資源の取得および利用から生ずる利益の、公正な配分に関する名古屋議定書を施行する	
	17:各国の生物多様性戦略と活動計画を策定する	✓
E:参加型計画立案、知識管理と能力開発を通じて実施を強化する。	18:伝統的な知識を尊重し、条約の履行に反映される	✓
	19:知識と技術を改善し、共有する	✓
	20:資金を増加する	✓

IUCNレッドリストによって、自然の構成要素を絶滅から守るためにどこで行動が必要か、知ることができます。種に関する有用な情報を豊富に提供することにより、生物多様性ニーズを意思決定過程に組み込むための直接的な方法も提供します。

地球環境ファシリティ(GEF)は2008年以降、IUCNレッドリストの情報を資源分配の枠組みに組み入れてきました。クリティカル・エコシステム・パートナーシップ基金や、Save Our Species(SOS)、ムハンマド・ビン・ザーイド種の保全基金などの財団も、IUCNレッドリストの評価結果を利用して、自然保護への投資をしています。

保全計画の手法として、IUCNレッドリストを利用し、「重要野鳥生息地」や「重要植生地域」、そしてAlliance for Zero Extinctionサイトなど、保護が必要な地域を認定しています。例えば、Alliance for Zero Extinctionサイトを満たす基準の一つに、「IUCNレッドリストに記載されている深刻な危機種、もしくは危機種を少なくとも1つ含む」があります。

IUCNレッドリストは、環境影響評価を導く一助となります。生息地と種への脅威に関する豊富な情報が生物多様性の管理計画や現場の回復計画に利用されています。また、保全計画分析とIUCNレッドリストからの脅威に関する情報を組み合わせることにより、より持続可能な効果を得る機会を導き出すために、業界とのパートナーシップを構築してきました。石油化学、鉱業、骨材、金融などの業界によるネット・ポジティブ・インパクト(NPI)やノー・ネット・ロスのような取り組みは、種の分布と保全状況に関する情報へアクセスすることで利益を得ています。

IUCNレッドリストからの新情報は、ウェブや、新聞、テレビやラジオ、雑誌の特集などで記事になるほど、メディアの関心を引き、種の窮状とそれを取り巻くより大きな環境問題が広く認識されるようになっています。動物園、水族館、植物園のネットワークでは、IUCNレッドリスト掲載情報を、それぞれの種の説明板に記載することでIUCNレッドリストを支援しています。

IUCNレッドリストのウェブサイト(www.incnredlist.org)は、教育者やあらゆる年齢層の生徒たちによって頻繁に活用されています。

IUCNレッドリストの分布情報により、保健関係の研究者は、既知、もしくは疑わしい人畜共通感染症の媒介種の分布から、将来、疾患の発生予測モデルを作り出すなど、頻繁に活用しています。また、薬用植物を保護する活動が、的確かつ確実に実施されるよう、持続不可能な形で収穫されているそれらの植物を際立たせるのに役立っています。

保全行動

保全行動はいろいろな成果をもたらしています。IUCNレッドリストに記載されている多くの種は、健全な科学に基づく保全事業により、絶滅から救われました。以下は世界中でおこなわれたさまざまな成功例をいくつか選んだものです。



ベニカノコソウの一種
(*Centranthus trinervis*)

この草本植物はコルシカ島（地中海の島）の固有種で、主に人間の干渉や登山などのレクリエーション、ヤギの放牧などで絶滅の危機にさらされています。ベニカノコソウの生育地は、現在Nature 2000ネットワークに含まれ、本種の保全に適した方法で管理されています。崖に設置された登山設備は撤去され、沿岸域保全整備機構は、個体群を保護するためにこの種が生育している場所を購入しました。2011年に深刻な危機から危機へとダウンリストされました。



ベニヒラタムシ
(*Cucujus cinnaberinus*)

この甲虫はヨーロッパ中で見られますが、生息環境の悪化や損失、および個体群の分断化と隔離の深刻化が主要な脅威となっています。ベルン条約の附属書IIや欧州生息地指令の附属書IIとIVに記載されており、多くの国で法的な保護を受けています。その生息地を保護することで、周辺地域ではまだ減少しているものの、中部ヨーロッパでの分布を拡大しています。2010年、危機から準絶滅危惧へとダウンリストされました。



トキ
(*Nipponia nippon*)

トキは極東ロシア、日本と中国に生息していました。19世紀後半から、営巣地と採食地の悪化、乱獲、水田での農業使用による餌の減少で急速に数を減らしました。1980年代以降、伐採、水田での農業の使用や狩猟の際の銃器使用を禁止する規則が制定されてきました。営巣木も国有財産化され、保護されてきました。飼育下繁殖と再導入事業も開始され、放鳥された個体も繁殖に成功しており、この結果、2000年には深刻な危機から危機へとダウンリストされました。



クロアシイタチ
(*Mustela nigripes*)

クロアシイタチは1996年に野生絶滅したとされました。そこで、米国魚類野生生物局の協力のもと、ワイオミング州鳥獣魚類局によって1985年に開始した飼育下繁殖事業の結果、6000頭以上が飼育下で誕生しました。これまでに米国西部とメキシコに再導入されています。2008年、IUCNレッドリストにて危機に再評価されました。回復を進めるには継続的な保全が不可欠です。



ブルーイグアナ
(*Cyclura lewisi*)

カリブ海の島、グランドケイマンにのみ生息しています。野犬や野猫、ネズミなどの外来種と生息地の変改によって深刻な脅威に晒されています。1990年代初め、野生の個体数は25頭以下とされていました。その後、飼育繁殖などの保全プログラムにより、600匹以上の個体が、捕食動物を制御した保護地域に放されました。いまだに深刻な危機のランクではありますが、これからの保全活動により将来は明るいと考えるでしょう。



オーストラリアミナミアユ
(*Prototroctes maraena*)

オーストラリアの固有種で、生活環を全うするため、川と海を回遊する必要があります。そのため、ダムや堰などの障害物、水質悪化、外来種のブラウントラウトが河川での個体群に大きな影響を与えてきました。さまざまな保全措置により、個体群が回復し始めました。2009年、危機から準絶滅危惧になりました。

保全活動



マヨルカサンバガエル
(*Alytes muletensis*)

クサリヤマカガシによる捕食や生息場所をめぐってのベレスワライガエルとの競合、そして開発が脅威となっています。クサリヤマカガシをサンバガエルの生息地から取り除く保全プログラムを実施し、バレアレス諸島政府とダレル野生動物保護トラストにより飼育繁殖と再導入、その他の保全運動を行ってきました。その結果、これまでに少なくとも10個体群の再導入に成功し、2006年には深刻な危機から危急にまでダウンリストされました。



ナイルワニ
(*Crocodylus niloticus*)

アフリカの固有種で、肉（薬効があると信じられています）や革が目当ての狩猟、水質汚染、漁網での混獲が脅威となっています。国際取引の管理と国内法が制定され、絶滅の危機は減少しました。一部の分布域では絶滅のおそれがあるものの、1996年には危急から低懸念へとダウンリストされました。



ザトウクジラ
(*Megaptera novaeangliae*)

1968年までに、捕鯨によってザトウクジラの個体群が激減しました。国際捕鯨委員会による捕鯨の制限が行われると、ザトウクジラの数は驚異的な回復力を見せ、捕鯨が終了してからは、ほとんどの個体群が増加しています。2008年、IUCNレッドリストは、一つの個体群で約6万頭以上もの個体数があり、さらに増加していることから、危急から低懸念へと再評価しました。



コスミレコンゴウインコ
(*Anodorhynchus leari*)

この珍しい鳥は取引により大きな脅威に晒されており、1983年には総個体数は60羽ほどだと推定されました。ワシントン条約附属書IとIIに記載されており、ブラジルの法律で保護されています。取引ネットワークへの介入や繁殖地での監視により、密猟者や密輸者、採集者を取り締まりました。その結果、2009年には深刻な危機から危機へと再評価され、現在個体群は1000羽以上と推定されています。



セーシェルシキチョウ
(*Copsychus sechellarum*)

元々はセーシェル諸島の島々に生息していましたが、1965年には1つの島に12羽から15羽が残るだけでした。減少の主な原因は、ネコやネズミなどの外来種による捕食と競合、バナナなど農業による生息地の環境悪化や減少です。1990年に回復事業が始まりました。2005年には深刻な危機から危機へとダウンリストされました。2006年には4つの島で個体数が178羽に達し、40年間で10倍も増加したことになります。



アラビアオリックス
(*Oryx leucoryx*)

風格のあるアラビアオリックスは、乱獲により絶滅に瀕し、1972年には最後の1頭が撃たれ、絶滅したと思われていました。飼育下繁殖と再導入の努力が実り、野生のアラビアオリックスは現在約1000頭まで増え、将来の不安は見当たりません。2011年、危機から危急にダウンリストされました。

私たちが目指すのは、IUCNレッドリストをより完全な

“生命のバロメーター”

にすることです。種の評価に対する広範な分類学的基礎により、より良い保全と政策決定が可能になります。

暫定的な目標として16万種の評価が提案されており、この意欲的な計画にかかる費用は推定65億円とされています。

目標は

160,000
種

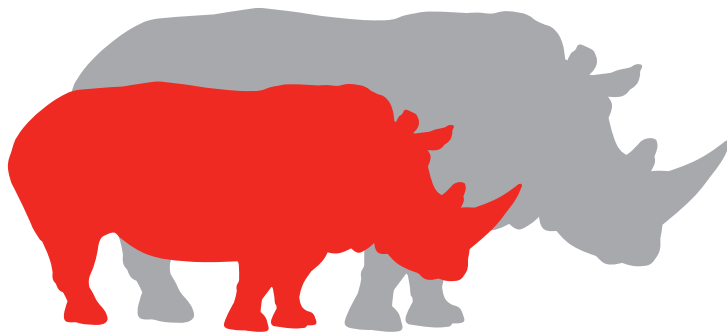
これまでに

85,604
種

評価目標-160,000種
2016年までに評価された生物-85,604種
記載済みの種-1,889,587種



自然界の背骨
脊椎動物



評価目標 61,635種
評価済みの種 44,694種 (2016年)
記載済みの種 64,788種

地球上の生物の推定99%が
無脊椎動物



評価目標 45,344種
評価済みの種 18,609種 (2016年)
記載済みの種 1,359,365種



Warauhia insignis (Mez) 未評価
Photography © W. Till Bartuss and R. Samuel



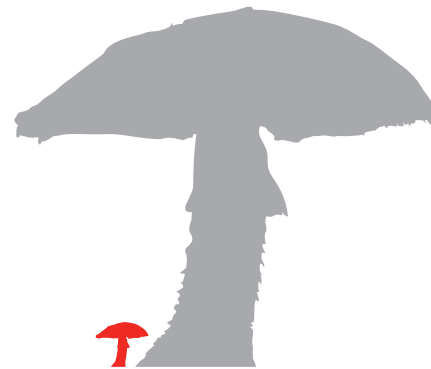
ベニテングタケ Amanita muscaria 未評価
Photography © Christine Majul

地球の肺
植物



評価目標 **38,521種**
評価済みの種 **22,253種 (2016年)**
記載済みの種 310,129種

最も研究されておらず、資金も不足している
菌類とその他のグループ



評価目標 **14,500種**
評価済みの種 **48種 (2016年)**
記載済みの種 165,305種

IUCNレッドリストは 保全行動の スタート地点です

IUCNレッドリストをより完全な“生命のバロメーター”にするために、トヨタは28,000種以上の生物種の評価を支援しています。

IUCNレッドリストがより完全な“生命のバロメーター”となるには、

- ・ IUCNレッドリスト評価を実施する専門家の数を増やす
- ・ 毎年評価する生物種の数的大幅に増加する
- ・ 種群の定期的な再評価を実施する事が重要です。

ご協力をお願いします。
詳しくは、iucnredlist@iucn.orgにお問い合わせください。
www.iucnredlist.org/donate



“地球環境問題の取り組みにおいて大切なことは、人々の生活に良い変化をもたらすように早期かつ大胆に具体的な行動を起こすことです。トヨタは、1997年にプリウスを発売し、最近では燃料電池自動車MIRAIを発売するなど環境対策を進めてきました。しかし、環境を守るということは、二酸化炭素や排出ガスの問題に対応することだけではありません。生物多様性の保全も、人々の生活にとって重要な取り組みです。IUCNとのパートナーシップにより「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」の実現に向けて新たな一歩を踏み出せたことを誇りに思います。”

ディディエ・ルロワ トヨタ自動車取締役副社長

詳しくはこちらまでお問い合わせください

iucnredlist@iucn.org

www.iucnredlist.org



Species on The IUCN Red List page – Photography Credits

Encephalartos laevifolius – © SANBI
Pseudophilautus tanu – © Milivoje Kravac - Department of Biology and Ecology UNS
Acropora palmata – © Jan Paul Zagarra/USFWS Southeast
Neocallitropsis pancheri – © Mickael T Wikimedia Commons
Tarsius tumpara – © Geoff Deehan
Mergus octosetaceus – © Adriano Gambarini

Conservation Action Map Page 1 – Photography Credits

Centranthus trinervis – © Antonie van den Bos for www.aycrronto.com
Cucujus cinnaberinus – © Goux Nicolas and Brustel Hervé
Nipponia nippon – © Andy Li, CC 2.0, NoDerivs
Mustela nigripes – © Michael Lockhart, USFWS, CC 2.0
Cyclura lewisi – © Peter J. Markham, Loretto, MN, CC 2.0, sharealike
Prototroctes maraena – © Gary Backhouse, DSE, Arthur Rylah Institute, CC 2.5

Conservation Action Map Page 2 – Photography Credits

Alytes muletensis – © Bert Willaert, www.bertwillaert.com
Crocodylus niloticus – © Sarah McCans, CC 2.0
Megaptera novaeangliae – © Whit Welles, CC 3.0
Anodorhynchus leari – © Ashok Khosla, www.seeingbirds.com
Copsychus sechellarum – © Adrian Scottow, CC 2.0, sharealike
Oryx leuconyx – © Topiltzin Contreras MacBeath

Translated by: Kiyomi Yasumiba 休場 聖美 and Atsuko Otsuka 大塚 あつ子
Design: PlanningUnit.co.uk

コミミズク (*Asio flammeus*) 低懸念
Photography © Gordon Ellmer

